

ナジヨスンベ



特集

西和賀で生まれた 子どもの未来は？2

～子育て・教育と育ち・学びを考える～

【町教育委員会委員】 瀬川瑛子
【沢内小学校PTA会長】 高橋裕之
【沢内小学校校長】 熊澤裕樹
【西和賀高校校長】 高橋国博

定例会報告....8

補正予算 その他 意見書

未来をつくる提案・議論《一般質問》

議会報告会

みなさんの声をお聞きました ご意見編16

令和8年度所管事務調査のお知らせ19

西和賀で 生まれた 子どもの 未来は？

～子育て・教育と
育ち・学びを考える～

大人や町の目線で考えた「子育て」や「教育」は、当事者である子どもたちがら見れば、「育ち」や「学び」と表現される。これらを取り巻く環境が、西和賀で、今、大きく変わりつつある。議会は町に對して、現状を質問したり、提言書を提出したりしてきた。また、視察報告会や議会報告会などの機会に住民から意見を聞いてきた。

町の方針をまだ知らない人や、イメージを持てていない人、もっと考えたい、もっと意見を出したいという人もいるだろう。大人や町にとっても、子どもにとっても、立場を超えて、ともに考え、よりよい環境づくりにつながるように、今どうなっているのか、これからどうなる予定なのかを、改めてお伝えする。

児童・生徒数の減少、保育所や学校の施設の老朽化を背景に、議論が進行中

令和5年11月
保育所あり方検討委員会が報告書提出
令和6年3月
学校のあり方検討委員会が報告書提出

町が全6会場で「学校・保育所のあり方地域説明会」、保育所や小中学校の保護者への説明会やアンケート調査を実施

説明会やアンケートで寄せられた意見を踏まえて、町が内部協議

令和7年3月
小中学校および保育所の今後のあり方について、最終的な町の方針を決定

令和7年5月から
沢内地区小中一貫校設置検討委員会が、建設場所や施設機能、周辺施設（保育所、学童クラブ等）を含めたエリア構想を検討

令和7年8月
沢内地区小中一貫校設置検討委員会が、設置場所等については現在の沢内中学校周辺（太田地区）とする、などの報告を提出

町が、児童生徒の保護者や住民に對して、小中一貫校の設置場所などについて、説明会を実施

現在
町は、他自治体の事例等を学びながら、小中一貫教育のあり方や西和賀の特色を地域活力につなげる取り組みをどう進めていくか、方向性について内部で検討中



保育園・保育所

- 現在 -
〔沢内〕
せんだん保育所の1園体制
今年度「保育園留学」の受け入れ開始

〔湯田〕
湯本保育園の1園体制
湯田小学校のとなり
新園舎を建設中

- 今後 -
〔沢内〕
今後建設予定の小中一貫校に隣接した新しい施設を模索
〔湯田〕
令和9年4月から
新園舎で保育開始予定

令和5年11月に提出された
保育所あり方検討委員会報告
<https://www.town.nishiwaga.lg.jp/material/files/group/14/hoikusyoarikatahoukoku.pdf>



保育所あり方検討委員会の報告をもとに町が決定した方針

- 入所児童が定員を割り込み運営が厳しいこと、建物の老朽化も著しいことから、現在の施設を統合して新たに施設を整備
- 町立保育所は川舟・せんだん・新町の3保育所を統合し、沢内地区の小中一貫校の近くに整備する。私立保育園は湯本・川尻保育園を統合し、湯田小学校の近くに整備
- 統合後の保育施設では、保護者のニーズを反映し、充実した保育サービスを提供するため、町立と私立の両保育施設間の連携を図る

保育所・保育園の統合は完了

保育園留学とは

町外で子育てをする家族が、1～2週間の期間限定で、西和賀に滞在し、その間、子どもを保育所に通わせる仕組み。（14ページ、普本議員の一般質問も参照）

ねらい
保育の質の維持：町外の子どもたちが加わることで、保育所内の交流が活性化
関係人口の創出：町のファンを増やして、将来的な移住や地域活性化につなげる
地域の魅力発信：豊かな自然や温かい地域性を全国にPR



せがわ えいこ
瀬川 瑛子さん
平成30年に町に移住。
カフェ経営のかたわら、
令和8年より町教育委員会の委員。

「本物」に触れられる
西和賀だからこそ

私は、ものづくりや表現に力を入れる小学校で育ち、高校は帰国子女が多数を占める環境で学びました。文化や価値観の違う人たちと意見を出し合い、一つのものを作り上げる経験は、今の私の土台になっています。いま、保育園に通う2人の息子を育てる毎日です。日々悩みなながらも、自分のなかで大事なしたいことが2つあります。ひとつは「戦争をさせない子育て」。友人からの受け売りですが、文化や価値観、外見の違う人を尊重し、理解しようとする姿勢を身につけさせたい。もう一つは、AIの時代だからこそ、肉体と感情を持つ人間としての土台を養わせたい。足

元の自然と深くつながり、身体感覚と感受性を育て、自分を表現できる人になってほしい。そう考えると、西和賀の学校で取り組まれている演劇や、農業体験を含む自然体験は、まさに私の願いと重なります。演劇では、他者や異文化への理解、コミュニケーション、自己表現を学べます。「役」になることで、文章に書かれていない人の心情まで想像する力がつきます。自然体験からは、自然の偉大さと人間の小ささを知り、科学と芸術の両方のまなざしで、目の前のものを観察し、気づき、何かを生み出す力を学べます。どちらも、西和賀だからこそ本物に触れられるものです。加えて、子どもたちが多様な選択肢から自分の道を選ぶようにしたい。ふだん接する大人だけでなく、いろいろな仕事や生き方をする人に会ってほしい。そのために自分にもできることがあるはずなので、町の皆さんと一緒にかたちにしたいと思っています。

朗報!

少人数学級は子どもにも大人にも好影響!

少人数学級は児童・生徒の学力向上や抑うつ防止に効果があることが、文科省の実証研究で明らかになった。教員のメンタルヘルスや学級経営にも好影響。

文部科学省「少人数教育の実現」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hensei/003/index.html

小中一貫教育ってなに?

小中連携教育のひとつの形態。

小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校
1人の校長、1つの教職員組織	それぞれの学校ごとに校長、教職員組織
修業年限：9年 (前期課程6年＋後期課程3年)	修業年限：小学校6年 中学校3年

施設は一体でも、隣接していても、施設が離れていても大丈夫

----- 教育委員会や議会はそれぞれ、視察を行っている -----

議会

福島県大熊町 町立 学び舎 ゆめの森
 議会だよりNo.78に報告

秋田県五城目町 町立五城目小学校
 議会だよりNo.82に報告



←視察をもとに町に提出した「町民が参加する学校づくりに向けての提言」

教育委員会

秋田県五城目町 町立五城目小学校
<https://www.goshou.net/>

岐阜県白川村
 義務教育学校 白川村立白川郷学園
<https://www.shirakawa-go.org/school/>

「桃源郷」で育つ子どもたちに
 問い続ける力を



旧湯田町・左草出身。西和賀高校、盛岡大学を経て小学校教員に。令和6年4月より、沢内小学校校長。

私は左草の出身です。山深い集落で、稲作等の手伝いに追われ、外に出掛けることや習い事に通う環境がうらやましかった。それでも、地元への赴任は念願でした。今、母と暮らしながら働いていることも、何よりありがたく思っています。

着任して、子どもたちの素直さと、一つのこと黙々と向かう姿には驚かされました。子どもも大人も、土に親しみ、雪のなかで育ってきたことが、その土台を作り上げたのでしょう。また、これまで出会った子どもたちの中でも、高齢者と特に自然にやり取りできると感じています。

今後、本校では更に複式学級が増える予定です。私自身、旧・左草小学校では複式で育ちましたが、その頃と比べて指導方法の研究は大きく進みました。先生が一方の学年を教える間、もう一方の学年は自分たちで学習を進める複式のスタイルには難しさもありますが、この『自分たちで学ぶ』時間こそ、主体性や一人ひとりに合わせた学びを育むうえで大きな可能性を持つと分かっています。

そうした学びを通して、素直さや実直さのうえに、「自分はこう思うか」と問い続ける力も育てたい。限られた人間関係のなかだからこそ、意見を伝え合える力も必要です。そして「私の通う沢内小学校はね」と、自分の学校を堂々と語れる子に育ってほしいと願っています。

令和6年3月に提出された
 学校のあり方検討委員会報告
https://www.town.nishiwaga.lg.jp/material/files/group/14/gakkouarikatahoukoku_nishiwaga.pdf



学校のあり方検討委員会の報告をもとに町が決定した方針

- 南北に距離がある町の地域事情と小中学校の縦の連携を重視し、**湯田・沢内の両地区それぞれに小学校と中学校を一体又は隣接する建物に配置する小中一貫教育制度を導入し、沢内地区で先行して施設整備**
- 湯田地区では当面現在の建物を使用し、小中連携教育に取り組む**
- 小中学校と保育所や学童クラブを隣接した一体的エリアとして整備を図る**
- 建物は内装の木質化などデザイン性と機能性を重視して整備**
- 一貫教育の特性を生かし、子育て世代や町外住民に魅力を感じさせる教育実践に取り組む**

しかし、施設整備については町の財政的な問題や社会情勢から、先行きが不透明になりつつある。

自分自身は「地域の人に育ててもらった」という思いがすごくて、恩返しに気持ちで地域やPTAの活動に取り組んでいます。

子どもたちには沢内の伝統や文化を大切にしたいという思いがあります。深澤晟雄の思いを受け継ぐことや、田植え踊り、沢内甚句のような文化も大事に継承してほしいです。自身、太田地区の盆踊りを中心になって開催しています。大変ですよ！でもとてもやりがいがあります。

今の子どもたちは少子化で気軽に友達と遊べなかったり、ゲームが遊びの中心だったり、自分の子ども時代とはずいぶん環境が変わったと感じます。自分自身は沢内がすごくいいところだと思っています。でも新しい考えをもっている人が受け入れられにくかったり、生かされなかったりするのすごく惜しい。いろいろな人の思いが生かされることで、この地域がよりよくなっていくと思うし、みんなで地域を守っていこうという気持ちで、いい教育環境づくりにつながると感じています。

- 現在 -
 [沢内]
 一部学年で複式学級化
 (令和7年度から)

[湯田]
 一部学年で複式学級化
 (令和8年度から)

- 今後 -
 [沢内]
 小中一貫教育制度を導入し、施設整備

[湯田]
 当面は既存の校舎を使用し、
 *小中連携教育に取り組む

*小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す教育

小学校・中学校



教育環境づくりに
 住民の意見を生かして

沢内小学校
 PTA会長



生まれも育ちも太田地区。地域の農業の担い手としても欠かせない存在。末っ子が沢内小学校に通学中。

境が変わったと感じます。自分が子どもの頃は中学校の行事でもクラス対抗で盛り上がりつつ楽しかったけれど、今はクラス減でできなくなっているし、部活動も少人数のために継続が難しくなるなど、多様な経験というところでは困難なのかなと感じます。

今回沢内小学校のPTAとして、地区懇談会のテーマに今町で検討されている「小中一貫校」を取り上げました。沢内地区内4カ所で開催して、様々な意見が出されました。これらの意見が、今後のよりよい教育環境のために生かされてほしいです。

自分は沢内がすごくいいところだと思っています。でも新しい考えをもっている人が受け入れられにくかったり、生かされなかったりするのすごく惜しい。いろいろな人の思いが生かされることで、この地域がよりよくなっていくと思うし、みんなで地域を守っていこうという気持ちで、いい教育環境づくりにつながると感じています。

西和賀高校

西和賀高校（西高）は県立だが、町にとって非常に重要な存在であることから、住民らによって存続のための運動が行われ、また、町はさまざまな補助を行ってきた。（今号8ページにも寮関係の補正予算の記事あり。）

西高は生徒にとって魅力的な学校

令和7年度に、定員が1学級40人から、2学級80人に倍増。県立高校では20年ぶりの定員増。

- 勉強や部活動をする上で小規模校（3学年合計の学級数が9学級以下）を希望する生徒がいる
- 「先生と生徒の距離が近い」「模試・検定受験の手厚いサポートがありがたい」などの声
- 英語と数学では、習熟度別授業を実施。一般的な習熟度別授業は「2クラスを2人で見える」形式が多いが、西高では2つのクラスを3つのグループに分け、さらにきめ細やかな指導を実現。
- 本人の資質を育てて、希望を叶える学校として、認知されつつある
- 生徒数増加、県外からの「留学」を受け入れ、現在、西和賀高校に通っている生徒の出身校は29校

町出身の
西和賀高校 校長



「話を聞く」「向き合う」が
生徒の心強い味方

旧湯田町・小繫沢出身。教員として県立高校を渡り歩き、令和7年4月より、西和賀高校校長。西高には今回が初めての赴任。

私は小繫沢の出身ですが、町の高校に通いました。赴任が決まったとき、正直なところ複雑な気持ちもありましたが、そんな思いはすぐに消えました。学校と家庭、地域が長い年月をかけて積み重ねてきた西高特有の温かみに触れたからです。

とりわけ印象的だったのが、生徒と教員の距離の近さです。少人数だからこそ、教員は「まず生徒の話を知ろう」という姿勢になります。以前と比べて生徒たちの出身中学が増え、背景や思いはバラエティ豊かになりました。勉強を頑張りたい子、部活に打ち込みたい子、どこかでつまづいてやり直したい子もいます。だからこそ、一つの目標に向かって全員を引っ張るの

ではなく、その子が伸びたい方向に伸ばし、見守る指導になります。以前、定時制の高校で、良かったと思って学び直しをさせていた生徒の「気持ちには分かるけど、新しいことも知りたい」という言葉が忘れられません。知的好奇心にこたえ、手応えを持つて帰ってもらうことの大切さに気づかされました。

ITの発展により、学ぶための道具は充実してきました。ただ、道具だけでは足りません。教員の働きかけがあつて初めて、生徒は学び方を自分のものにできます。「わからなかったら質問していい」「わかるまでは、大げさに言えば、「ここにいていいんだよ」というメッセージにもなっているはず。豊かな自然と地域ぐるみで子どもを育てる文化がある一方で、県外・町外出身の生徒が、寮や家と学校の往復で終わりがちなのもつたない。この町ならではの経験が学校の外でも得られたとき、生徒にとって、この町が本当に特別な場所になるはず。

町の地方創生において西高の果たすべき役割

町の地方創生において、西高の果たすべき役割、魅力化のあり方などを改めて定義するために、町が「西和賀町の地方創生と高等学校の魅力化を考える有識者懇談会」を設置。

答申の抜粋（令和7年3月）

- 西高の2学級化を単なる量的拡大ではなく、教育活動を質的に深化させる好機として捉え、町と高校、そして地域が一体となって更なる魅力化の取組を推進することが期待される
- 高校の魅力化は単なる生徒確保の取組ではなく、高校と地域が協働して次世代の人材を育成し、「人が地域を創り、地域が人を創る」という好循環を生み出していく営み
- 共通の理念や方向性のもと、地域全体で高校生の学びと育ちを支えていく環境づくりを進めていくことが求められる。それは、教育を核とした地方創生の取組であり、西和賀町の未来を切り拓いていく重要な鍵となる

総合型地域スポーツクラブ

令和5年から準備を進めてきた総合型地域スポーツクラブは、新たに一般社団法人として活動を始動します。これまでの経緯と、これから目指してゆくカタチを、生涯学習課に伺いました。

町のスポーツ全体を見通して

総合型地域スポーツクラブとは、子どもから高齢者まで、誰もがそれぞれの興味や技術レベルに合わせて、多種目のスポーツを継続的に楽しめる地域密着型のクラブで、文部科学省・スポーツ庁が1995年から実施するスポーツ振興施策の一つです。

西和賀町では急激な少子化の中、スポーツ少年団は、団員が減少し、組織が維持できず団の数も減っている状況です。中学校は、生徒数・部活動種目が減少し、生徒が希望する部活動を提供できない状況です。

また、人口減少や高齢化の影響で、体育協会の活動が停滞し、大人もスポーツ活動に取り組む機会が少なくなっています。体育施設の老朽化も進み、管理のあり方や適正な規模について議論を進めていく必要があります。

このような様々な課題に対応するため、総合型地域スポーツクラブ「一般社団法人にしわがクラブ」を設立しました。

保護者・生徒への説明を

これまで、令和6年度から検討委員会を開催し、中学校部活動の現状把握・地域クラブが関われるスポーツや文化活動の種目・周知方法・役員の配置など検討してきました。検討経過は、父母会の代表者へ説明をおこなうとともに意見交換を行ってきました。

今後は、保護者・生徒への説明の機会を学校と調整しながら設けたいと考えています。

誰でもどこでもスポーツに

「いつでも・誰でも・どこでもスポーツや文化に親しむ環境づくり」を通じて、町民の健康づくりや豊かな地域づくりを目指します。

現在、試験的に開催している教室は、バスケットボールや吹奏楽など、学校の部活動にないメニューも補っています。多くの参加者から、いろんな競技を体験でき、専門的な指導を受けられると、喜ばれています。

当面は部活動の地域展開や出前講座の受託に加え、体育協会やスポーツ少年団の事務受託、各種のスポーツ教室や健康イベント、指導者・保護者向け研修事業など取り組む予定です。

みんなの声



ふじわら りょうた
藤原 陵太さん
地域スポーツコーディネーター

多世代・多種目・多志向!!

一般社団法人にしわがクラブ設立に向け、地域のスポーツ関係者や学校関係者を中心に検討を重ねてきました。部活動地域展開の受け皿としての機能だけではなく、総合型地域スポーツクラブが持つ、多世代・多種目・多志向という機能を持ち西和賀町民の運動や文化に触れる機会を創出していくことで、健康づくりや生きがいづくり、地域コミュニティの活性化を目指し活動、事業を行っています。

* 部活動の地域展開

主に公立中学校の部活動を学校単位の活動から、地域のスポーツクラブや文化芸術団体などが運営する形へと移行・連携させる取り組み。教員の負担軽減と、少子化の中でも子どもたちが継続して活動できる環境の確保を目的に、令和5年度から国の方針として段階的に始まり、令和8年度から本格的な推進「改革実行期間」に入っている。

第20回定例会 報告 (令和8年6月議会)

会期：令和8年 6月15日～18日

すべての議案を、賛成多数または全会一致で原案通り可決

一般質問
5名

意見書
1件



補正予算

地域おこし協力隊
招聘事業
ハウスマスター
990万円

「西和賀高校魅力化プロジェクト」の一環で、生徒の寮生活をサポートするハウスマスターを、地域おこし協力隊として採用。当初予算で確保していた分に、2人分を補正で予算計上し、3人分を確保した。

鳥獣被害防除機材
設置補助金
400万円

中小企業者向けに電気柵、防除威嚇機設置の補助を行う。既存の補助金では対象になっていなかった商工業者を対象とする。

(仮称)西和賀町
保健センター
建設事業
総額7億814万円

令和8・9年度の2か年で建設する継続費事業。総額のうち令和8年度に2億1244万円、令和9年度に4億9570万円を配分する。令和8年度は、保健センターの建設工事に着手するとともに、建設予定地にあるさわうち病院の公用車庫の移築工事を行う。(工事費の内訳は入札を控えるため非公表。)

Q 移築する車庫には、どの程度の公用車を停める想定か。当初、車庫は不足するとの説明だったが、対策はされているか。

A 今回の予算は、さわうち病院の既存車庫9台分を、そのまま移築す

Q 建設費については、さらなる物価高騰の影響も考えられる。どのような想定をしているか。

るもの。保健センターの車両分は現状手当てされていない。車庫が不足している認識はあり、当面は病院と共有しながら、全体で足りない分の対応を今後検討する。

A 令和6年度に策定した基本構想・基本計画では全体事業費を10億円と見込んでいた。物価高騰を加味しつつ面積を精査し、現在の規模に抑えた。今後の高騰分も含め、この枠内に収めるように進めたい。

泉沢水路地区
実施計画策定業務
委託料
1000万円

明治時代頃より使用され



現在の穴堰 入水部

ている穴堰の一部が、経年劣化で崩落し、瓦礫を除去しながら使用してきたが、更なる崩落が起きれば使用不能となるため、令和6年9月定例会に同地区より陳情書が提出された。同年10月に産業建設常任委員会による現地調査を経て、令和6年12月議会では、情を採択した。現地調査では、穴堰入水部に以前には見られなかった一部崩落が見られた。現有水田65ヘクタールを維持するためにも、早期の施工実施が望まれる。

みんなの声

ハウスマスターのみなさんに西和賀町の印象や暮らし、今後の展望などを伺いました。



左から、大友さん、伊藤さん、立石さん

おとも かな
大友 香南さん

いとう たき
伊藤 多嬉さん

たていし けんじ
立石 賢二さん

秋田市出身で、大学も含めほとんど東北圏内で過ごしました。長く塾講師として英語を教え、日本語教育にも携わってきました。もともと高校魅力化や公営塾に関心を持っていて、いくつかの地域を見学した中で、学務課の対応や熱意に心を動かされ西和賀町に決めました。

実際に来てみてなじめるかな、溶け込めるかなとか不安もありましたが、地域の人々の温かい声かけや包容力に、とてもいい町だなと感じています。

体調を崩したときも、町内の方が親身に支えてくれたり、何も言わずに除雪をしてくれたり、今はこの町に「骨を埋めよう」って思います。

現在は、自習サポートやまちなか交流館で英語の個別指導もしています。

今後は寮生が自主的にやってみたいと思っている事を一緒に企画するなど、寮生と関わりながら何かできたらいいと考えています。

東京の大学を休学し西和賀町の地域おこし協力隊に応募しました。ハウスマスターを志した理由は、島根県の高校時代に寮生活で出会ったハウスマスターさんが、とても楽しそうでイキイキとお仕事をされていて、私もやってみたいと思いました。

私がいた寮は、学校が運営の主体でしたが、ここは地域の方が寮を支えていて、人々の協力し合う姿勢と心配りに感動しています。生活リズムが以前とちがうし大変ですが、忙しい寮生活の中でも高校生たちの明るさに励まされ、エネルギーを貰えています。

今後は、人と人を繋げていけるような存在になりたいですし、寮生と地域の人が自然に関わり合える環境づくりに力を入れていきたいと思っています。

九州で長年高校教員として勤め、再任用後も経験を生かしたいと西和賀町の地域おこし協力隊に応募しました。私のスキルの中で一番高いのは、ボート指導だと思っています。競技面では指導資格(コーチ3)やモーターボートの免許も取得しています。

西和賀の豪雪やかつての鉱山町で命懸けの仕事をし生活を営んできた歴史的背景からか、協力し合う気風や、町が県立高校の寮を支える姿勢など「人肌脱ごう」という結の精神に深い感銘を受けました。現在はハウスマスターとして寮の基盤づくりに取り組んでいます。子どもたちが安心して生活でき、協力の精神を育める土台づくりに努めたいと思います。

その他

町民バス取得

1290万円

町が運行する町民バスで利用するため、中型自動車(四輪駆動。定員数14人、乗客用座席12席)を2台購入する。購入に国の補助金を活用するため、運行路線が限定されるが、沢内線、沢内・湯田おでかけバス(Aーオンデマンド交通)で利用する。電動補助ステップ・乗降口の両側に手すり・バックモニター・ドライブレコーダーを備え、安全確保を徹底する。

Q 14人定員のサイズで十分か？

A おでかけバスは、現在、29人乗りのマイクロバスで運用しているが、これまでの乗車状況、平均乗車人数から考えて、中型サ

* 継続費
完成までに複数年度かかる事業について、総額と年度ごとの支出額をあらかじめ一括して議決しておく仕組み。年度をまたいで計画的に工事を進められる。

審議の結果

第20回定例会で話し合ったこと、その結果

※ページ数を書いてあるものは議会だより内で詳しく取り上げています

議会だよりの審議や質疑の記事は、抜粋や要約をしています。正確には、後日町のホームページに公開する会議録をご覧ください。

<https://www.town.nishiwaga.lg.jp/chogikai/index.html>



件名	結果
報告	
令和7年度一般会計予算繰越明許費計算書（繰越第一号）	
令和7年度水道事業会計予算繰越計算書	
専決処分の承認	
令和7年度一般会計補正予算（第10号）	原案承認
国民健康保険特別会計補正予算	原案承認
後期高齢者医療 特別会計補正予算	原案承認
条例改正（法律・政令・省令などの改正にあわせるもの）	
国民健康保険税条例の一部を改正	原案承認
町税条例の一部を改正	原案承認
令和8年度 補正予算	
一般会計補正予算（第1号）	原案可決
介護保険特別会計補正予算（第1号）	原案可決
町立西和賀さわうち 病院事業会計 補正予算（1号）	原案可決
水道事業会計補正予算（1号）	原案可決
下水道事業会計補正予算（1号）	原案可決
その他	
辺地に関わる公共的施設の総合整備計画の変更（左草辺地）	原案可決
町民バスの取得/福祉バスの取得/ロータリー除雪車の取得/ 消防ポンプ自動車の取得	原案可決
同意	
教育委員会の委員の任命	同意
議員からの発議	
OTC類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書	原案可決

賛否の 分かれた 案件 ○賛成 ×反対	案件	北村 嗣雄	真嶋 実	普本 歌織	中村 ひとみ	高橋 敏樹	唐仁 原俊博	高橋 義彦	高橋 宏	高橋 到	柳沢 安雄	刈田 敏	結果
	発議2号	OTC 類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書											
	採決	×	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	可決

※議長は賛否が同数などの場合にのみ採決に参加します。これ以外は採決に参加しません。

イズで運用可能であると判断した。

福祉バス取得
1244万円

現行定員数38人で運用中の福祉バスから29人乗りのマイクロバスにサイズダウンし購入する。四輪駆動車で、電動補助ステップを装備している。冬の走行・高齢者の乗降に配慮した。

Q 町民もバスを使用することができると？

A 福祉バス運行管理規則によって使用対象者が定められている。（町内に所在する社会福祉団体、社会福祉施設利用者その他町長が特に認めた者。）使用対象者が、使用しうとする日の5日前までに申請し、町長が許可すれば使用可能となる。

意見書の審査結果

* OTC類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書

政府は健康保険法の改定において、OTC類似薬の保険適用除外を盛り込みましたが、これにより患者の自己判断で市販薬を使用することが増え、適切な治療を受けられずに重篤化することへの懸念が指摘されています。また患者の薬代負担が大幅増となり治療が継続できない事態が起きかねないことから、患者団体などから保険適用の継続が求められています。この間、各自治体の努力で充実してきた子ども医療費の助成制度を壊すことにもなりかねない、OTC類似薬の保険適用除外を行わないことを求めます。

提案者 普本 歌織 賛成者 真嶋 実

Q （議員から提案者への質問）医療費の増大に関しては、どのように考えているか。



A 医療費全体、制度全体を考える必要があることは指摘の通りである。協会けんぽは財政再建のために保険料率を引き上げた結果、準備金は増加している。これを保険料の引き下げにこそ使うべきだ。また、この OTC類似薬を保険から外すべきではないとする署名は、全国保険医団体連合会の呼びかけで全国 21 万筆以上、難病患者の家族会などから8万 5000 筆以上、オンライン署名でも9万筆を超える署名が集まっている。制度の見直しをするのであれば、国はこうした声を無視すべきではない。

反対
討論

高橋 宏 議員

今、日本は世界でもトップクラスの高齢化社会を迎えており、医療費抑制が課題となっていることから、作られた新制度が OTC類似薬の保険適用除外であり、一定の理解をすべきと思う。OTC類似薬の完全な保険適用除外は見送り、77 成分・約 1,100 品目程度を対象に、薬剤費の4分の1を特別料金として徴収する仕組みに転換された点や、制度から除外される方として、子ども、がん患者、難病患者、低所得者、入院患者、特定の病気で長期にわたり薬が必要な患者を指定し配慮した点を評価し、本意見書には反対する。



結果 賛成多数で採択され意見書が内閣総理大臣他、国の関係機関に提出された。

* OTC 類似薬
処方薬のうち、薬局などで購入できる一般用医薬品と成分や効能が同じ薬剤。対象となるのは77成分・1100品目が想定されており、解熱鎮痛剤、湿布薬、保湿剤などが含まれている。

未来をつくる 提案・議論

一般質問報告

今回は5人が質問！



議員は町の行政、財政について、執行機関に質問できます。定例会では「一般質問」として、未来をつくるための提案・議論を行います。

議員名に **囲み** のある項目は記事掲載あり。掲載文の文責は各議員にあります。質疑応答の全文は、会議録ができ次第町ホームページで公開します。

くらし

クマ被害への対応	唐仁原
クマ対策に利用できる補助金	唐仁原
クマに関する情報発信	唐仁原
狩猟免許説明会への住民の反応	唐仁原

教育・子育て

沢内地区小中一貫校の進捗	普本
小中一貫校の保護者への周知	普本
保育所統合後の通所支援	普本
湯田地区保育園建設の進捗	普本
保育園留学の内容	普本
保育園留学について園・事業者との連携	普本
保育園留学について保護者・地域への周知	普本
教育留学の検討	普本
部活動休日対応	真嶋
農業体験の現状	刈田

保健・医療・福祉

さわうち病院「いのちの教育」の内容	普本
-------------------	----

生涯学習・生涯スポーツ

総合型地域スポーツクラブ	真嶋
--------------	----

農業・林業

農業体験との関わり	刈田
-----------	----

商業・工業

人材マッチングサービスの活用促進	唐仁原
------------------	-----

雇用・人材育成

公務員の兼業・副業の弾力化	唐仁原
農業の職場体験	刈田

観光

第三次西和賀町観光振興計画の策定に向けて	唐仁原
観光ターゲットの捉え方	唐仁原
観光事業者のクマ対策への支援	唐仁原

まちづくり・地域づくり

町の「関わりしろ」の可視化と受入体制	唐仁原
地域委託型集落支援員制度について	高橋宏
複合拠点施設と農業の関わり	刈田

まちづくり・地域づくり

町職員の働き方とキャリア形成	唐仁原
町の広報戦略	唐仁原
町プレスリリースの送付状況	唐仁原

農業体験



刈田 敏

Q

児童生徒への農業体験の現状は

A

小学校では、田植え・稲刈り・さつま芋収穫など、農作物を育てる魅力と収穫の喜び、調理の体験と世代間の交流により、こころ豊かな児童の育成につなげている。

中学校では、キャリア教育として職場体験があり、農業法人の皆さんの協力を得て、生徒の興味・関心に基づき、実際の体験を通じての学びを深めている。地域の方々や、農業関係者の皆さんの協力のもと、子どもたちの成長を支えていただいている。

Q

農業体験は、町にとって長期的に見ても必要不可欠と考えるが、農業体験のあり方をどのように考えるか。

A

町の基幹産業である農業に触れ合う機会はとても大事だ。西和賀町をよく知り、ここで生まれ育った喜びを感じるきっかけにもなる。地域への



教育振興会志賀来実践班の田植え

愛情を持った子ども達の育成には大きな経験になると考える。

Q

町にとって農業体験は戦略的に重要だ。人材育成・産業振興の面からも、現在計画中の複合拠点施設の中に、何らかの形で取り入れることが必要と思うが考えを伺う。

A

複合拠点施設の目的のひとつが、にぎわいを創造することだ。農業体験と複合拠点施設のあり方を考え、限られた資源・人材の中でいかにそれを結びつけられるか、情報発信も踏まえながら実現に向けて取り組んでいきたいし、波及効果を狙っていきたい。

中学校部活・休日対応と課題



真嶋 実

Q

中学校・休日部活動の地域展開への取り組みについて、本町における実施状況と今後の課題は何か。

A

本町では、令和5年度から中学校休日部活動の地域展開に取り組んでいる。全てのクラブに、平日は学務課で部活動指導員を配置し、休日も地域スポーツクラブとして同じ指導員を配置している。その中で課題と考えていることは以下の3点である。

・指導者の確保

外部指導者が複数いない部が多く、指導者が休みを取りづらい状況にある。

・子どもの送迎

練習場所や大会会場が遠い場合、安全に移動する手段が少ない状況で、スクールバスや町民バスの活用等を検討し、各家庭での負担を支援をしていく必要がある。

・保護者の費用負担

現在は国の補助事業を活用

し、指導者謝金や物品購入を行っているが、補助事業の終了後、費用負担が課題になる。

総合型地域スポーツクラブの今後の展開は

Q

総合型地域クラブの機能としてはスポーツ振興のほかに、文化活動、地域づくり活動まで様々な形態として可能性があると聞いたが、町内での体育活動と芸術文化活動の連携体制も求められている。西和賀町ではどのような展開を考えているか。

A

町のスポーツや文化に関して、総括的に見られる組織でありたいと思っているので、それぞれの関係者と連携を図りながら、どのような運営をしていくのか検討していく。



バレーボール教室の一コマ



ひろし
たかはし
高橋

Q

雇用契約手続事務サポートは雇用や活動経費も委託費対象

地域委託型集落支援員制度について

Q 地域委託型集落支援員制度と兼任型集落支援員制度の違いは

A 兼任型集落支援員は、地域づくり計画に沿って活動するため、計画策定後でなければ採用できない。地域委託型集落支援員は、地域づくり計画策定が業務の一つとなっているので、地域で採用されてから地域づくり計画を策定してもよい。

Q 地域委託型集落支援員を町に申請するまでの流れは

A 1. 地域づくり組織が、地域委託型集落支援員の活用について合意形成を図り、支援員候補者を選定する。
2. 業務委託実施計画書や就任承諾書など書類を作成し、町へ提出。町と地域づくり組織が業務委託契約を締結。
3. 地域づくり組織が雇用契約手続を行い、町から支援員へ委嘱状を交付して、活動開始。

Q

集落支援員雇用の事務サポートと補助金は

A 地域委託型集落支援員は、地域づくり組織が直接雇用するので、給与等の支払いや社会保険加入は地域づくり組織が対応することになる。ただ、事前の書類作成や手続きは町でもサポートする。
町以外からサポートを受けた場合や、活動経費も補助金の支給対象なので、経費として計上していれば活用が可能。

Q

地域委託型集落支援員が、地域環境保全や有害鳥獣対策としての草刈りや、高齢者世帯の除雪支援を行なってもいいか

A 基本的には地域で合意があれば取り組むことが可能だ。しかし、除雪や草刈りといった作業そのものが目的化すれば、その後につながる。そうした活動を通じて、地域の困りごとを把握し、持続可能な仕組みを作っていくというのが本来の役割だ。



としひろ
唐仁原
俊博

Q

クマ関連の情報発信に課題は？

A

住民の受け止め方にある

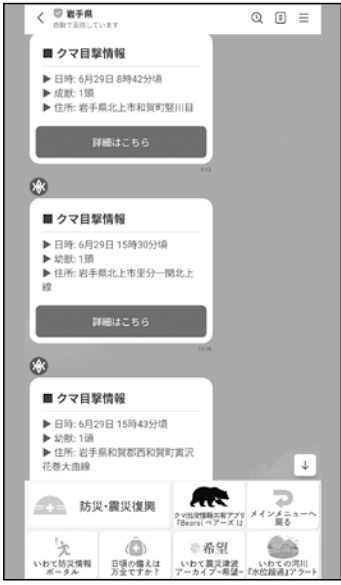
クマ対策の現状と課題

本年5月、町内でクマによるものとみられる人身被害が発生した。現場にクマがとどまっており、法に定める緊急銃猟の要件に該当しない立地であったことから、県に口頭で許可を取り通常の駆除対応となった。ただし、駆除できたか現時点で確認できていない。町は現場に民を設置し、告知端末・町公式LINE・広報車などで注意喚起を続けている。

県も今年から、個体数を管理する指定管理捕獲をより積極的に行う方針。5月後半から町内に複数の箱罠を設置し、捕獲実績も出ている。

情報発信について町は、告知端末や町公式LINEなど複数の手段で行い、観光協会とも連携していると説明。

また、県公式LINEを通じて、クマの出没情報などが届く「ベアーズ」の登録・活用を推進したい考え。一方で「日頃から安全対策を取る人はいれば、好奇心が



県公式LINEと「ベアーズ」の活用を!

ら現場に近づく人もいる」と、住民の受け止め方に幅がある点を課題に挙げた。今後は他市町村の有効な対策も取り入れ、被害対策への意識向上につながる発信に努めるとした。
住民や農家が使える補助金として、電気柵などの防除機材設置補助、クマを誘引する放任果樹の伐採費補助、クマ撃退スプレー購入費補助がある。さらに6月補正予算で、観光・商工業者が電気柵の設置などを利用できる補助金を新設した。
唐仁原は「町は行政としてできる限りのことをやっている」と評価した上で、基礎自治体単独での対応は限界に近づいているとし、今後は県や広域での対応を町として要望し、議会としても声を上げていく必要があるのではないかと述べた。



かおり
かどわき
普本

Q

保育園留学の検討は7月下旬から受け入れ

保育所・地域との連携は

Q 「保育園留学」の受け入れが始まる。令和8年度予算審議では、町外の方が1週間から2週間、町内に滞在しながら子どもを町内保育所に通わせることができる制度で、受け入れ園をせんだん保育所とし、今年度運用を開始するという説明であった。どのような経験を提供できる見通しか。

A 特別なメニューを用意するのではなく、地域ならではの保育や普段の生活、西和賀の自然体験そのものを魅力として提供したい。今後は利用者のニーズに応じて、体験内容やPRの充実を検討する。

Q 滞在場所となる宿泊施設、受け入れ園となるせんだん保育所との連携は十分か。

A 滞在場所は長瀬野地区の宿泊施設を予定。利用者の滞在に必要な設備が整っているほか、事業者には制度の理解をいただいている。せんだん保

育所では職員のみなさんに協力いただき、受け入れ態勢を整えており、今後も丁寧な連携を図る。保護者へも具体的な内容を伝えながら協力を仰ぐ。

Q 利用者が安心して滞在するためには、地域の協力が必要か。地域住民への周知はどのように行うか。

A 滞在場所となる長瀬野地区には趣旨やお願いしたい事項をまとめ全戸に配布するほか、広報紙、町ホームページへの掲載など、全町への周知に努める。



「保育園留学」の予約サイト

議会傍聴はどなたでもできます。途中入退室は自由です。ぜひ、生の議会を体験してください。

傍聴方法

●傍聴の受付場所 役場3階議場前

①傍聴人受付用紙に名前を記入、受付箱へ投函

②資料を受け取り入場

※入退場自由／傍聴20席程度、車いす2席程度可能



次回の定例会は9月上旬の予定です。

正式な日程は、8月下旬に町ホームページに掲載します。

* **ベアーズ**
クマの出没情報を誰でもスマホから素早く投稿でき、リアルタイムに地図上で閲覧できる、岩手県が提供するアプリ。利用方法は県公式サイトから確認できる。
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1096154.html>

* **指定管理捕獲**
国が定めた枠組みに基づき、被害の有無にかかわらず、クマの数そのものを適正に管理するために県が行う捕獲。

みなさんの声をお聞きました

ご意見編

令和8年2月16〜19日、町内6カ所において議会報告会を実施しました。議会より視察研修の成果、議員定数等あり方検討委員会の答申について説明したほか、みなさんからの「ご意見、質問、ご要望などお聞きました。今号ではみなさんから出された「ご意見等をお知らせします。」



議会への質問・ご意見

Q 2回連続無投票になった原因は何なのか、それが分からないと対応できないのではないか。

A 無投票について議会として調査はしていない。しかし、住民の皆さんから議会が何をしているのか分からないとの声があるため、周知の努力をすることに取り組んできた。常任委員会活動の活性化、町への提言、議会広報紙のリニューアルなどである。

Q 議員の立候補者を増やすには、活動自体の見直し、例えばリモートで会議をする、夜仕事が終わった後会議をするなどの工夫が必要ではないか。

A 現状、具体的な検討はできていないが、今後は検討していくことが必要だと考える。

ご意見

●視察研修が町の政策にどのように活かされるのか見えなかったが、今回、政策提言の取組をしたのはとても良いことだと思う。

●議員定数は現在の12名でいいのかという意見が町民の間で出ている。妥当とするならば、住民が納得するように説明して欲しい。

●前回の選挙は無投票だったが、新

Q 視察先に選んだ五城目町だが、子どもの人口比など町に近い条件のところでない、視察の意味がないのではないか。

A どんな自治体の施策を学んだとしても、それを本町の実態に引き寄せて検討する必要がある。今回は人口比にこだわらず施策を中心に視察先を選んだが、今後の視察先検討の際には考慮したい。

Q 過去の報告会や説明会では議員定数削減の意見は住民から出なかったか。

A 昨年も意見が出ており、特別委員会を立ち上げて検討を行った。

Q 議員数を減らすと交付税も減らされるのでは。

人が多かったので議員のなり手が全くなけりではないのでは。選挙になることが大事なのか、議員としての活動をしっかりとすることが大事なのかだと思う。

●議員定数についてはナジヨスンベではなくナンスガスルベだと思う。
●定数削減は反対。人口が少なくなったから減らせばいいというものではない。10人の議員では出る意見も少なくなる。(複数)

●広い地域の中で要望を反映させるためには議員の人数が必要で、減らせないのでは。

●競争がないと議員のモチベーションに影響するのではない。無競争は良くないと思う。

●報酬は妥当だと思う。
●なり手を増やすには報酬アップがいいのでは。子育て世代がダブルワークしなくても議員報酬で生活できるようにした方がなり手が増えると思う。

●議会報のナジヨスンベという響きが暗い。
●議員活動をもっと町民に知らせる努力をしてほしい。

●通年議会や夜間議会など開催時間を検討してはどうか。

A 直ちには減らないが、将来的に減る可能性がある。

Q 本町の女性議員の割合は全国的にみてどうか。

A 全国的に女性議員は少ない。本町は2人いるので平均であるが、様々な意見が議会であるようにするためにはもっと割合を増やすべきと考える。

Q 議員の活動はどれくらいか。

A 少ない議員で63日、一番多い議員は151日だった。

Q 本町議会の政務活動費はどうなっているのか。

A 支給していない。他自治体では会派に支給している場合があるが、本町議会には会派もない。

Q 議員数を減らすと地域からの声を拾えなくなるのではないかと指摘の通りで慎重に考える必要がある。

Q 議員定数等あり方検討委員会の報告書は公開されているか。
A まだ公開されていない。今後、公開予定である。

Q 人口減少が加速的に進んでいる中で人口と議員定数の関係性は委員会では話になったのか。

A 人口比に対する定数の妥当性よりも、町政の課題に対して多様な視点で十分な議論が出来る人数を優先し、現状維持という結論に至った。

Q 今回の結論はどれくらい先を見越したものか。

A 令和9年の議員選挙とその後4年間の活動を見越しての結論である。今後も広く皆様からご意見を伺い、引き続き検討しなければならぬ。

Q 議員定数を減らし、議員報酬全体が少なくなることで町民にとってメリットがあるのか、議員報酬を増やせば議員の立候補者は増えるのかといった検討はされたか。

A 議員報酬が減れば当然その分の予算を他の事業に回すことができるが、それを良しとするか皆さんと慎重に考えていきたい。

一方で議員報酬を増やすことは議員の仕事の魅力の一つになると思うが、それだけでなく、議員活動自体の魅力を感じてもらうことが重要だと考えている。

ご要望

今後も定数や報酬について検討を続けてほしい。

予算のときにはよく考えて議決してほしい。

農地を荒らさないように必死に守っている。小規模農家への支援を、議会からも提示してほしい。

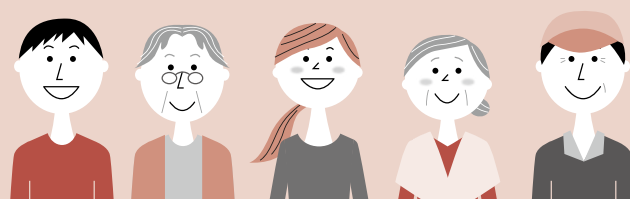
部落や地域の代表が議員になる時代ではなくなった。いろいろな人、状況、思いに対応してほしい。

議員の任期ももうすぐ終わり。それぞれ議員の4年間の活動結果を「ナジヨシタ」で報告してほしい。

人口減少の中でどうやって地域を作っていくのか。現実をみた計画を議員間でも検討してほしい。

現状の課題を討論するのは当然だが、将来を見据えた長期的な視野で町政のチェックをお願いしたい。

いただいたご意見は今後の議会活動に生かしていきます。





町の未来を灯す小中一貫教育と いま大きく襲い掛かる獣害被害への対策の在り方

本年度の所管事務調査のテーマが、総務教民常任委員会「町が進める小中一貫教育の検討状況の調査」、産業建設常任委員会「農地を守る獣害被害対策のための現状と課題の把握」と決まりました。

所管事務調査とは、行政から提案された議案の審査とは別に、常任委員会がそれぞれの担当する分野（所管する事務）について自主的にテーマを設定して行う調査のことです。地域の課題解決や、行政への政策提言などを目的として実施されます。

ここでは本年度おこなう調査の概要をお知らせいたします。

総務教民常任委員会 町が進める小中一貫教育の検討状況の調査

町では校舎の老朽化への対応、児童数の減少の中で望ましい教育環境を維持することを目的として、町内の小中学校を一貫校化することを検討しています。町の教育環境が大きく変わろうとしている今、これからの町にどのような学校を残すべきなのでしょう。

沢内地区で検討されている小中一貫校の形態の一つである「義務教育学校」とは、どんな制度で、どんな教育が可能になるのか。先進地への視察、有識者との懇談などにより見識を深め、町の教育にふさわしい制度について提言できるよう、調査を進めます。



6月30日、大槌学園を視察しました。

産業建設常任委員会 獣害被害・対策の現状把握と先進地事例の調査

5月29日、農林課より獣害被害の状況及び対策の説明を受けました。獣害被害対策の先進地を調査した所、雫石町が10年程前から独自の施策を実施して実績を上げている事から、7月10日同町を訪問して、独自施策実施の経緯と現状、ICTの活用法、情報発信の方法、現状の課題を学び、当局に提言できる様調査を進めます。



広域に張り巡らされた電気柵



議会報告会での意見や質問はすべて町長に伝え、今後に生かすよう求めました。

町への 意見・要望 ご要望

議会報告会では、町の事業に対する質問や要望も寄せられました。ここではご意見とご要望についてお知らせします。

◆小中学校のあり方

- 財政的なことを考えると、小学校・中学校は町で一ヶ所ずつにしたい。
- 一度建てた学校は20年・30年場合によつては100年持つ。建設計画はそうした長期の見通しが必要ではないか。
- 小中学校のあり方について意見を言っても、もう決まったことです、と言われる感じで、話し合いが足りないのではないかと。
- 小中学校のあり方について、防災や避難場所という意味合いで町内2ヶ所に配置する考えは納得できる。
- 学校問題だが、西和賀で今年5人しか生まれていない。湯田1つ沢内1つの学校は、必要ないのではないかと。
- 学校がなくなると地域がなくなるといわれているが、人数が少なすぎれば行事も維持できなくなる。思い切りも必要では。
- 子どもが卒業すると学校建設に関しては、あまり自分ごとにならないが、五城目町のように町民も交流できる施設にしてほしい。
- 教育施設について町民が意見を出す機会がない。「みんなの学校」にするためには地域の意見も聞いてほしい。
- 子ども会行事だけでなく、地域の人の

◆地域と学校の連携

◆総合計画

- 総合計画では、人口減少の中でどうやって地域を作っていくのかを全面に出した方がいいと感じた。西高、ユキノチカラ、道の駅が3つのエンジンになっているが、ちぐはぐに感じる。もっと現実を見ての総合計画でないといけないのではないか。
- 移住を促進するには、いきなり移住でなくても西和賀町で出来る体験をしてもらいたい町の良さを知ってもらったらどうか。西和賀町全体で取り組んでいけたらいいと思う。
- 田舎に対して不安に感じるのは、情報が少なく知らないことが多いからだと思うが、こちらから情報を出すことで、ビジネスチャンスにつながる場合もあるのではないかと。
- 空き家の活用も必要だし駅周りがもっと元気になることが必要だと思つた。
- 学校と地域が連絡をとれるようにコーディネーターを置いていて、コーディネーターを介さずに直に地域と連絡を取ることもできるようにしてほしい。

◆移住定住

◆自治組織

- イベントがあった時に食事をできるところがないのは問題だと思つた。
- 農地水は事務仕事がとても大変。勤めながらや、農家をしながらできるようなものではない。しかし地域でできることもやめてしまえば、国から資金として来るものもなくなってしまう。
- 自分の地域では、ここ数年で急激に人口が減った。町では地域で支援員を雇って活性化を狙っているようだが、出来ない地域もある。できる地域とできない地域に格差が広がるのではないかと。
- 地域に集落支援員を配置する事業については、住民が納得するまで丁寧に説明して欲しい。
- インフラ整備
 - なめとこラインと東側幹線は道路の雪が無くなっても通行止めが続く。春は早く秋遅く、可能な限り通行できるようにしてほしい。
 - なめとこラインの川舟側の道路幅を広げてほしい。

質問について町からの回答が届きましたら改めてお知らせします。



議会と議員はなにをしてら？

県南地区町議会議員研修会 世界遺産に学ぶ



6月26日、平泉町において「地域の遺産を活かしたまちづくり」と題し県立平泉世界遺産がガイダンスセンター八重樫忠郎センター長からご講話頂いた。中尊寺建立900年、世界遺産登録15年を迎える節目の年に、県南地区4町がこれまで繋がってきた歴史を学び今後も後世に引き継いでいくことが重要と確認できました。

中尊寺建立供養願文によると「敵味方の区別なく生きとし生けるものすべて平等の仏国土」と記されています。まさに世界遺産の偉大さを感じ、本町の「生命尊重」に通じるものだと感じました。

消防操法競技会 悪天候の中、全力で挑む！



6月21日、西和賀消防署を会場に「第18回西和賀町消防操法競技会」が開催され風雨激しい悪天候の中、支部大会出場を目指し、巧みなチームワークで競技が行われました。

結果は以下の通りです。(7月12日同会場で開催される支部大会に出場分団)

ポンプ車操法の部	小型ポンプ操法の部
優勝 1分団	優勝 6分団
準優勝 2分団	準優勝 3分団
	3 位 5分団

定例報告会・政政研究会 総合計画について理解を深める



5月7日、定例報告会・政策研究会が行われました。報告会では、3月28日に発生した堆肥センター火災の状況について、空家活用促進事業費補助、北部拠点施設整備事業についての報告を受けました。

また政策研究会では第3次西和賀町総合計画「まちの将来像」「豊かな自然と学びが招く笑顔が行き交う賑わいの町」について勉強会が行われ計画についての理解を深めました。

広報モニター会議 新モニターも交えて意見交換



4月21日、議会広報モニターの委嘱式と、対面での広報モニター会議を行い、議会のよりよい広報活動のために意見を交わしました。制度運用を開始した昨年度は、モニターの任期を1年にした試行でしたが、今年度より、委嘱期間が2年になります。有馬由菜さん（鍵飯）、菊池啓二さん（中村）、森陽平さん（上野々）の3人は引き続き、新たに高橋育子さん（小繋沢）、藤井美江さん（上野々）の2人に参加いただきます。

町村議会議員研修会 人事行政と地域福祉を学ぶ



5月19日、町村議会議員研修会が盛岡市の岩手県自治会館にて開催されました。明治大学の出雲明子教授から、人口減少による地域人材不足や行政サービスの变化、議員のなり手不足の深刻化について学び、議会の役割の重要性を再認識しました。東洋大学の山本美香教授からは、人口減少下の地域福祉について学びました。担い手不足への対応と、住民を支える「つなぎ」の再設計の重要性を確認しました。

湯田ふるさと会総会 ふるさとの絆を未来へつなぐ



6月13日、第19回湯田ふるさと会総会が東京都上野で開催されました。町から町長、副議長、商工会会長、観光協会会長ら6名、沢内ふるさと会から会長、副会長が出席。総会では活動方針と新役員を決定し、懇親会では「湯田ダム沈黙の記憶」などの映像を鑑賞しました。懐かしい風景を囲み交流を深め、世代を超えてふるさととのつながりを受け継ぐ大切さを確認する、有意義なひとときとなりました。

●主な議会公式行動 R8.3.17～R8.6.11まで

3月	17日 火	沢内小学校卒業式
	19日 木	新町保育所卒園式・閉所式 令和7年度消防表彰受章記念祝賀会
	23日 月	令和7年度西和賀町教育委員会並びに西和賀町体育協会表彰式
	24日 火	3月定例会総括会議 広報編集常任委員会
	25日 水	令和7年度末教職員定期人事異動による辞令交付式
4月	31日 火	広報編集常任委員会
	1日 水	令和8年度教職員着任式・辞令交付式
	3日 金	町政調査会幹事会
	6日 月	湯田中学校入学式
	7日 火	湯田小学校入学式
5月	9日 木	令和8年度着任教職員歓迎会
	10日 金	町政調査会総会
	11日 土	令和8年度北上地方交通安全協会沢内支会総会
	21日 火	第10回広報モニター会議
	23日 木	令和8年度和賀川の清流を守る会総会
6月	27日 月	令和8年度西和賀町消防関係者歓送迎会
	28日 火	令和8年春の交通安全功労者等の表彰式
	30日 木	北上西和賀地区戦没者追悼式
	7日 木	議会定例報告会・政策研究会
	8日 金	広報編集常任委員会
7月	13日 水	西わらびお披露目会&「ゆうパック」出発式
	18日 月	令和8年度県南地区町議会議長会総会
	19日 火	町政調査会幹事会 岩手県町村議会議員研修会
	22日 金	令和8年度西和賀商工会通常総会
	25日 月	岩手県政150周年記念式典 総務教民常任委員会
8月	26日 火	令和8年度町村議会議長・副議長研修会
	28日 木	北上地方交通安全協会通常総会
	29日 金	産業建設常任委員会所管事務調査
	1日 月	議会運営委員会 令和8年度西和賀高等学校教育振興会総会
	3日 水	令和8年度北上地方交通安全協会湯田支会通常総会
9月	5日 金	広報編集常任委員会 令和8年度西和賀町観光協会総会
	8日 月	令和8年度湯田温泉峡旅館組合通常総会
	11日 木	第20回定例会資料説明会

このように 議長交際費をお知らせします

(令和8年2月26日～令和8年6月14日までの内訳)

🎉 お祝い	0件	0円
🎵 会費	8件	62,000円
🎁 お悔み (花輪なども含みます)	0件	0円



自宅玄関、三男の野球のパネルの前で

西和賀町に移住して頑張っている人や生まれてから現在まで西和賀町で暮らす皆さんを紹介します。

ひろがれ!! 西和賀の輪

たかはし まさる
高橋 勝さん 妻・みやさん Vol.31
(太田75歳・74歳)

沢内太田生まれの高橋勝さんは、東京で調理の仕事に就き、同い年で鉄道会社に勤務していたみやさんと結婚。父の入院を機に夫婦で帰郷し、誘致企業を長年支えました。青年会を立ち上げ、盆踊りを復活し、今も地域に受け継がれています。三男の野球応援で各地を巡った思い出は、夫妻の宝物。

地域の伝統を次の世代へつなぎ、身近な情報を発信し続ける勝さん。その活動の根底には、ふるさと太田と、そこに暮らす人々への深い愛情がありました。

この町をナジヨにか良くしようという気持ちで活動に取り組んでほしい。議会では質問も必要ですが、議員からの前向きな提案をもっと増やし、活発に議論してもらいたい。また、町が各種団体へ交付している補助金についても、支出先や事業内容をしっかり精査し、有効に活用されるようにしてほしい。

問 議会や町に望むことは？

親戚同士、近所同士に助け合う気持ちがあり、人と人との強い絆があることです。そして、四季がはっきりしていることも西和賀の魅力です。春夏秋冬、一年に4回、気持ちを入れ替えることができます。

問 西和賀の魅力は？

65歳のときに太田区長を引き受けてから、今年で10年になります。就任した当初から、地域の回覧紙「月刊おおた」を発行してきました。気がつけば、現在は123号を数えます。地域の中にある話、出来事や、日々の暮らしの中にある話題を届けることで、住民同士の話が近づくことに少し役立てばと思っています。また、自宅では、天然の山菜や自家製野菜の直売にも取り組んでいます。ただ、野菜はなかなか売れないんですよ。

問 現在取り組んでいることは？

紙上クイズ スミからスミまで

問題文 空欄に適切な言葉を入れてご応募ください。当選者には景品を差し上げます!!

- 1 ○○○留学は町外の親子が西和賀の保育を経験できる制度(漢字3文字)
- 2 地域おこし協力隊として採用された「○○○マスター」(カタカナ3文字)
- 3 本町議会の女性議員は○人(数字1文字)

応募方法

はがき、ファックス、WEB（Googleフォーム）で、答え、住所、氏名（ふりがな）、年齢、連絡先をご記入ください。また、①今号で良かった記事 ②取り上げてほしい内容や企画 ③議会に対するご要望、ご意見などあわせてご記入ください。今後の「西和賀町議会だより」の発行にあたり、皆さんの意見を参考にするほか、寄せられた意見を次号に一部掲載します。なお、匿名での受け付けはしません。

前号の答え 1 処遇改善 2 20 3 インフラ

応募先

- 〒029-5512 西和賀町川尻40-40-71 西和賀町議会事務局「議会だより紙上クイズ」係まで、
- ファックスの場合は0197-82-2171まで、
- Googleフォームの場合は右のQRコードを読み取りご応募ください。



【締め切り】
7月31日消印有効とします。

【No82の当選者の発表】 高橋 勝さん(太田)、有馬 由菜さん(鍵飯)、加藤 裕さん(新町) \ おめでとうございます。/



自分たちの宿題として

限界町村の第一番になって久しい。

実際には予想通りの人口減少、かなり大変な状態だといえる。

確かに生活に必要な商店、床屋、本屋などは減って、不便なことはいっぱいある。車がなければ納豆一つも買えない。年寄りにとっては死活問題だろう。だけど年寄りは減ってはいない。減っているのは若者と子供。動ける世代の減少が続いている。

いい職場がないから、除雪が嫌だから、理由はいっぱいあると思う。

逆に都会からきてここに住みたいと考える人達も多くはないがそれなりにいる。そしてかなり元気だ。話を聞くと、ここには他にないものがあると共通して話してくれる。それは自然であったり、人だったり、食文化だったり色々だが私たちが見ていないもの、当たり前と考えていることが多いように思う。私自身も北上、花巻に通って仕事をし、街の便利さは充分知ってはいるが、ここから出ようとは思えなかった。何かしら共通するものがあるのだと思う。その良さを自分たち自身が認識し、自信をもって次の世代に、どう伝えていけるのか。それが今の私たちに課せられた宿題なのかと思い、もう少し頑張ってみようと思う。



お便り有難うございました。
北海道の超・田舎育ちの自分が、西和賀にやって来て、気が付けば40年。

子育ても一段落して振り返ると、新参者を温かく見守ってくれた先輩たちが築いてきた町の宝物を、自分たちが食いつぶしてしまったのではないかと考えさせられる日々です。

この町に見つけた大きな魅力も、長年暮らす中で当たり前のこととして埋もれてしまったようです。他所もの力（ヨソモノリョク）をとりもどし、忘れていた宿題にもう一度、挑む勇気をいただきました。「ナジヨスベ」の答え探しに、ご一緒させてください。（真嶋編集委員）

ほかにも声をお寄せくださった皆さん、ありがとうございました！

カタクリンコちゃんを みつけよう!



住んでよかったと言える町に!!

未来の西和賀をつくる
キミにおくじメッセー

元・保育士です。
わんぱくざかりの息子2人、夫と両親、
そして元保護犬の紋（もん）と、
にぎやかに暮らしています。



何でもやります♡
子育て・教育・
ジェンダー平等は
おまかせを!!

NO WAR! LOVE & PEACE!

平和がいちばん!
「好きな仕事をしたい」「安心して暮らしたい」
ひとりひとりの願いをかなえることが
地方の政治の役割です。
この町の人たちの暮らしをよくすることが、
社会の平和につながると信じています。
一緒に、よりよい町をつくりましょう!

子育てしながらでも
議員はできる!!

どんな町にしたい?

若くても高齢でも子どもでも
やりたいことが実現できて
楽しいことが見つけれられる町に

議会や議員の動きを
伝えるためにも
週1回の辻立ちを
当選時から続けています



沢内小学校で週1回
読み聞かせをしています



●各号、議員がひとりずつ登場し、皆さんに呼びかけます!

編集後記

こびりっこ

人間の指示に応じて文章や画像を生み出す人工知能を「生成AI」と言います。私も今年から、議員活動を含め仕事で本格的に使っています。ただ、「理想はこれ、現状はこれ」ここに課題を感じている」と具体的に教え込まなければ、一般論が返ってくるだけです。単純なことを質問するだけならともかく、使いこなすには、一人ひとりの個別具体的な体験や思い、それを伝える力が必要だと感じます。

そして、ネットに出ていない声は、AIには拾えません。議員活動に引きつけて言うと、住民から上がってきた声だけでなく、その背景まで探らないといけない、と改めて考えさせられます。

(この文書も生成AIと作成。)

広報編集常任委員会

副委員長 唐仁原俊博

【発行責任者】

議長 高橋 雅一

【議会だよりは広報編集常任委員会にて編集しています】

委員長 真嶋 実
副委員長 唐仁原俊博
委員 普本 歌織
中村ひとみ
高橋 敏樹
高橋 義彦
刈田 敏

// // // //

マナの未来とともに考える
議会だより にしわが

ナジヨスンベ

No. 83

発行日/令和8年7月15日、年4回発行
編集/若手県・西和賀町議会広報編集常任委員会
印刷/鶴田印刷株式会社・横手市

発行/若手県・西和賀町議会
〒029-0022 若手県西和賀町川尻40地割40番地71
西和賀町(湯田庁舎) TEL 0197-(82)2115 FAX 0197-(82)2171

VEGETABLE OIL INK

議会だよりは、過去に発行した分も含めて西和賀町公式ホームページでご覧いただけます

<https://www.town.nishiwaga.lg.jp>

